

新しい生活は2週目が終わって来週から3週目を迎えます。子どもたちにとって、特に新しいおこたちにとってはこの環境に慣れるにはまだまだ時間が必要です。

この時期、子ども達自身も、お家のママ達も、そして先生達はどちらのバスの運転手さん達も、新しい環境にすっかり慣れるにはまだまだなんです。

■園生活には「リズム」があります。そのリズムに慣れることが大事なのです。

進級児たちは、このリズムに慣れているリズムが身に染みかかっているけど、新しく入ってきたおこたちはみんなはじめての経験です。

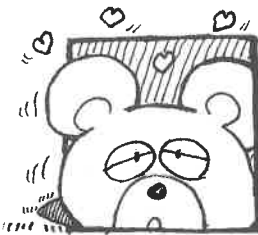
スタッフは、温かく接し、見守りながら育ちを助けて参りますので「ご安心ください」。

ご家庭では、こどもたちがこのリズムに慣れる為に「一生けんめいなんだ！」を理解してあげて、過保護にならずに温かく接してあげてください。

こどもたちは「育ち合い」をしています。

■つぼみのおこたち「ちが」仲間入りして一週間あまり。

つぼみさんたちもお兄ちゃんお姉ちゃんたちの真似をして育てて行きますが、お兄ちゃんお姉ちゃんたちとつぼみさんたちのお世話をばがら育ちます。



「育ち合い」なのです♡
これから、つぼみハウスでも園庭でも、ホールでも、すてきなふれ合いを観ることが出来ます♡

一口メモ

自給的の制帽は、深くかぶる帽子ではありません。豆貝の上に乗せる帽子です。「イートン帽」と言う帽子です。

英国のイートン校の制帽が原形です。東京銀座の「とち製帽」が、大正時代に全国展開したと聞いております。

「躰」とは親の価値観を伝えること 内田 伸子の 安心子育てより

あなたはお子さんに、どんな躰をしていますか？「躰」というと、「厳しくすること、叱ること」と思っている人が少なくないかも知れません。こんなふうに恐れてはいないでしょうか？「小さい時にきちんと躰をしておかないと、大きくなってわがままになってしまう」、あるいは逆に「厳しく躰けると、幼児虐待と思われるのではないか」と。

辞書には、躰とは「礼儀・作法を仕込むこと」「作りつけること」とあります。私は、躰とは「親の思いや価値観を伝える営みだ」と考えています。辞書にはほかに「縫い目を正しく整えるために、仮にざっと縫いつけておくこと」と書かれていますが、お裁縫のことを思い出してみてください。布同士がずれないようにあらかじめしつけ糸で縫い付けね。縫い終わったらしつけ糸を外すことを、家庭科で習いましたね。この「外す」ということが、子育てで大切なことだと私は考えます。きっちりきつく縫いつけるように子どもにものを教え込むのではなく、成長し、やがて自分の足で立つ時の為を思って導くのが躰です。

初めての赤ちゃんとてやわやママは、お茶一杯とゆとり飲も時間など無く、「一人立ちなんて、そんな遠い先のことは今からわからない」と思うでしょう。多くのママが「この大変さはいつまで続くだろう」と途方に暮れたことと思います。

しかしやがて、自分で食べる事が出来るようになり、少しずつ手が離れていこうになります。学校に入ると長いと思った6年間がみるみる過ぎ、中学・高校は入学したと思ったらあっという間に卒業の時がきます。

子どもが成人するまで「親が何を大切にして生きていくのか」を子どもに伝えるのが躰です。決して厳しく叱ることを意味するものではないのです。子どもが自分で考え、判断し、自行動できるようになる日に備えて親の価値観を伝え、やがてその子を徐々に離していくのです。

特別なことをするのではなく、要所要所で自分の思いや考えを伝えていくと、自分の力であるき出す日に向けて力が蓄わります。あなたはお子さんに何を伝えますか？